科目名称：	工芸論	
担当者名：	権田　宜子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2

授業の目的・テーマ

石川県は京都と並んで工芸の技術的水準が高い地域であり、数多くの名品や名工を輩出しています。しかし、その名工たちの作品がありながら、『工芸』作品としての特質を理解するまでに至っていないのが現状です。
この授業においては、講義や演習だけでなく美術館での作品鑑賞もあり、より身近に『工芸』を感じられるための導入とし、知識を得て理解を深めることを目指します。

授業の達成目標・到達目標

この授業においては『工芸』を体験的に学習することを主体としており、そのために作品鑑賞だけでなく、外部講師による工程説明や実際に演習として作品に取り組むことをから、『工芸』を理解することで視野を広げ、豊かな感受性を育むことを授業の目標とします。

基礎教育科目	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			80	20	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》 加賀友禅工房　(有)千紅	《経験年数１》 8年
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
理解力	工芸作品について理解し、見たりするようになり、話をすることができる	工芸作品について理解し、見たりするようになったが、話をするまでに至っていない	工芸作品については理解はしたが、話をするまでに至っていない	工芸作品についてあまり知らない
知識	工芸の種類や技法を詳しく理解することができた	工芸の種類や技法を知り、どのようにつくられているか少し知ることができた	工芸の種類は知っていても、どのように作られているかは知らない	工芸の種類やその技法を知らない
探求心	工芸を実際に鑑賞し、作品が出来上がるまでの技術の工夫や創造力を感じる	工芸を実際に鑑賞し、作品が出来上がるまでの創造力を感じる	工芸を実際鑑賞し、様々な工芸ができるまでの課程を知った	工芸を実際鑑賞しても、様々な工芸ができるまでの課程を知らない
意欲	工芸について興味を持ち、様々な場所で、手に取りたいと思うようになった	工芸について興味を持ち、様々な場所で気になるようになった	工芸について興味を持つことができたが、授業だけで充分である	工芸は難しそうである

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回　ガイダンス／工芸とは何か（アクティブラーニング）	シラバスに目を通し、この講義展開から工芸について教科書を読んでおく。	40分
第２回　漆芸／加賀蒔絵①（講義）	教科書にある『漆芸』の項目を通読し、漆芸に関することを調べておく。	40分
第３回　漆芸／加賀蒔絵②（授業内でグループワーク）	教科書にある『漆芸』の項目を通読し、漆芸に関することを調べておく。	40分
第４回　日本伝統工芸展の出品作に関する解説ビデオ鑑賞	気になった作品をより理解できるよう教科書を通読し、作品解説からまとめておく。	40分
第５回　日本伝統工芸展　石川県立美術館にて作品鑑賞	作品をより理解できるよう教科書を通読し、気になった作品を小レポートにまとめる。	40分
第６回　漆芸／加賀蒔絵③（授業内でグループワーク）	教科書にある『蒔絵』の項目を通読し、蒔絵に関する作品を調べておく。	40分
第７回　陶芸／九谷焼①　九谷セラミック・ラボ見学	九谷焼を仕上げるために使われる道具調べ、その使い方についてまとめておく。	40分
第８回　陶芸／九谷焼②（講義）	教科書にある『陶芸』の項目を通読し、陶芸に関する作品を調べておく。	40分
第９回　陶芸／九谷焼③（授業内でグループワーク）	教科書にある『九谷焼』の項目を通読し、九谷焼に関する作品を調べておく。	40分
第10回　本学卒業生の工芸家による作品解説・鑑賞方法	作品をより理解できるよう教科書を通読し、工芸の分野についてまとめておく。	40分
第11回　本学卒業生の工芸家による作品解説・鑑賞方法	作品をより理解できるよう教科書を通読し、工芸の分野についてまとめておく。	40分
第12回　課題作品発表会／《用の美》についてグループディスカッションする	これまでに取り組んだ作品を発表できるよう課題をやっておく。	40分
第13回　クラフトショップを提案し、イベントを企画する	クラフトショップを提案する際に、様々な店舗について調べておく。	40分
第14回　伝統工芸に関するレポート課題（授業内でグループディスカッション）	伝統工芸の今後について、自分の意見を課題プリントにまとめる。	40分
第15回　伝統工芸に関するレポート課題から工芸の将来を考察する（授業内でディベート）	伝統工芸の今後について、課題プリントの意見をもとにディスカッションをする。	40分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 実施しない。　　その他の評価配分は、以下のとおりである。
事前事後学修した課題作品30%、レポート課題内容 50%、授業への熱意・関心度 20%

課題に対してのフィードバック

学習成果についてルーブリックをとり、レポートとともにフィードバックする。

教科書・参考書

『伝統工芸ってなに？』　芸艸堂　　公益社団法人日本工芸会東日本支部編